

## 国際トレンド



国際会計士連盟 (IFAC)  
中小事務所委員会メンバー

ひぐちなおふみ

樋口 尚文

テクニカル・アドバイザー

なやともひろ

納野 知広

# IFAC—中小事務所委員会 (SMPC) ウィーン会議 及びSMPフォーラム報告

2017年5月29日及び30日にオーストリア共和国のウィーンにて開催された、国際会計士連盟(International Federation of Accountants:IFAC)の中小事務所委員会(Small and Medium Practices Committee:SMPC)の会議に、日本公認会計士協会の新井達哉常務理事とともに出席し、さらにIFACと世界銀行が5月31日に共催したSMPフォーラム(Regional SMP Forum)にも参加した。本稿では、同会議及び同フォーラムの様態を報告する。なお、SMPCの会議は非公開であり、議題に関連する資料の公表も行われておらず、限られた内容であることに留意されたい。

SMPCはIFAC内に設けられた組織であり、活動内容は、IFACのウェブサイトにおいて、以下のように記述されている。

### ① 基準設定

SME(中小企業)及びSMP(中小事務所)に対して適用される国際基準について、安定性、関連性及び均衡をもたらすことを支援するために、国際的な基準設定プロセスに対して定期的かつ適時にインプットを行う。

SMPCのインプットを基礎として、IFACは公開草案起草プロジェクトから公開草案公表後の開発プロセスのすべての主要な段階で、IAASB(国際監査・保証基準審議会)、IESBA(国際会計士

倫理基準審議会)及び、例えば、IFRS for SMEs(中小企業向け国際財務報告基準)を開発するIASB(国際会計基準審議会)のようなその他の関連する設定主体に対してコメントレターを提出する。SMPCの代表は、IAASB、IESBA、及び両審議会の諮問アドバイザーグループ(CAG)のすべての会議を傍聴する。

### ② リソース及びツール

IFACは、SMPがグローバルな市場で競争することを支援するために、ツール及びリソースの共有を促進する。

SMPが利用可能なリソースのギャップを定めるために、調査活動とSMPCからのインプットを用いて、IFACは、最もニーズの高い領域について、SMPを支援するためにIFAC加入団体への実務的な支援策を提供している。

主要な包括的なガイドには、レビュー業務ガイドや中小企業監査における国際監査基準利用ガイド(以下「ISAガイド」という。)等がある。

### ③ 対外活動

IFACは、SMP/SMEの代わりに、規制当局、基準設定主体及び政策決定者との対外活動を行っている。

IFACはまた、地域やグローバルな講演会(speaking engagement)、その他のアウトリーチ及びコミュニケーション

活動(SMPに関連するプレスリリースやニュースの発信)などに参加することにより、SMPの認知度の向上を促している。

## 第1章 SMPC会議

### 1 イントロダクション

議長からの開催の辞が述べられ、2017年2月のSMPC会議議事録の承認がなされた。

### 2 IAASBアップデート

IAASB議長のArnold Schilder教授及びIAASBのDeputy DirectorであるBeverly Bahlmann氏から最近のIAASBの基準開発状況について説明があった。

主な議題は以下のとおりである。

- ・ ISA540「会計上の見積りの監査」の2017年4月公表の公開草案
- ・ IAASBのSMPに関するイニシアチブ
- ・ ISA315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

このうち、ISA540については、特別な検討を要するリスクや、ISA701「独立監査人の監査報告書における監査上の主要な事項のコミュニケーション」との関係などについての質疑が行われた。

また、SMPIに関するイニシアチブについては、SMPCの活動への対応や、2017年1月にパリで開催されたSMEカンファレンスの議論を受けて、基準設定への対応方法(ScalabilityとProportionalityの考慮等の基準の柔軟な適用)を検討していること、及び、SMEの監査において、別個の基準を設けるかどうかの決定は時

期尚早でありIAASBでさらなる検討を行うことなどが説明された。

### 3 世界銀行によるプレゼンテーション

世界銀行の財務報告改革センター(Center for Financial Reporting Reform:CFRR)の責任者であるJarrett Decker氏及びKalina Sukarva氏から、会計士団体及びSMPへの支援状況についてのプレゼンテーションが行われた。

第2章でも説明するが、世界銀行はCFRRを通じて、①監査人の研修プログラムや実務的なツール及び資源の提供、②SMEの財務管理プログラム及び成長の促進者としての会計士の役割の支援、③セルビアのSMEセクター等で高品質の財務情報の提供により資金調達を可能とさせる等を行っている。これらの活動を通じた、発展途上国のSME、SMP及び会計士団体(以下「PAO」という。)のケーススタディ等が紹介された。SMEの支援の前提として、財務情報に信頼性を付与する会計士及びPAOの研修・支援を行い、信頼度の高い財務情報を基に融資を得やすくすることで、発展途上国の支援に役立てるという活動である。

### 4 タスク・フォース

SMPC内の各タスク・フォースに分かれて議論が行われた。

筆者は、通常、電子メールなどの手段を用いて行われている監査基準及び倫理のタスク・フォースの議論に参加した。また、中小事務所支援タスク・フォースからは、2017年中に中小事務所のための業務管理ガイド(Guide to Practice Management for Small- and Medium-Sized Practices)の第四版と

SMEの統合報告に関する公表物をリリースする予定であることが伝えられた。

### 5 IFAC会長Rachel Grimes氏による講演

Grimes会長の講演は、①会長の、会計士としての経歴の紹介、②将来の実務のためにIFACが取り組んでいるテクノロジーへの対応(AI、データ分析、データ保護などのIT技術の活用)の一環としてIFAC内にTechnology Advisory Groupを設けたこと、そして、テクノロジーはSMPにおいても非常に重要であり、会計士が信頼されるアドバイザーとなるためには不可避であること、及び③IFACの基準設定主体についてのモニタリング・グループによる改革案の概要などについて説明があった<sup>1</sup>。③については、各国PAOからの対応や連携が期待されるということであった。

### 6 IFAC SMP-SME Work Plan

2017年のWork Plan(作業計画)の進捗状況の説明があった。各タスク・フォースが対応することになるが、主な領域は下記のとおりである。

- IESBA/IAASBなど基準設定主体へのインプット
- 実務対応支援(ツールの開発とメンテナンス)
- Global Knowledge Gatewayへの貢献
- 情報収集
- SMPの認知度の向上

### 7 IESBAアップデート

IESBAの最近の活動について、Technical DirectorのKen Siong氏からプレゼンテーションが行われた。

まず、最近承認されたプロジェクトと、現在進行中のプロジェクト完了の目標時期について説明があった。

次に、職業的懐疑心の短期プロジェクト（公開草案が2017年5月に公表）及び長期プロジェクトについての論点の整理状況について説明があった。長期プロジェクトに関しては、IFACのPIOB（Public Interest Oversight Board）が、すべての職業会計士が職業的懐疑心を保持すべきという見解を有していることから、会計事務所等に所属するが監査・保証業務に関与しない職業会計士及び企業等に所属する職業会計士の日常業務にも影響を及ぼす可能性がある（例えば、日常業務において、職業的懐疑心を発揮したことを文書化する必要があるかもしれない）。そのため、この点について、質疑に多くの時間が費やされた。

最後に、IESBAの戦略サーベイ（2017年4月公表）<sup>2</sup>についての説明が行われた。ここでは、将来の戦略立案のためのサーベイの前提として、IESBAが、利用者である職業会計士と規制当局との間で、バランスを保って基準設定活動を行っていることが説明された。例えば、原則主義の基準は職業会計士や各国PAOにとっては望ましいかもしれないが、規制当局にとっては執行可能性に懸念を表明しているようであるし、基準設定の速度についても、実務を担う職業会計士にとって、頻繁な変更に伴う負担が懸念されるが、規制当局は適時性に欠けることがあると考えているようである。

## 8 Accountancy Europe のプレゼンテーション

Accountancy Europe（旧名称 Federation of European Accountants）のDeputy CEOであるHilde Blomme氏から、SMP/SMEの活動に

ついてプレゼンテーションが行われた。

Accountancy Europeはヨーロッパ37か国の50団体から構成され、監査・保証、企業報告、パブリック・セクター及び租税など多数の専門家グループから構成されている。

Blomme氏からは、まず、透明性の確保について、将来のSMEの報告がどのような形態になるかということと、SMPがSMEに提供するサービスの変化（法定監査の縮小に伴う監査以外のサービス提供への考慮やITの活用など）への対応が課題になっていることが説明された。

次に、信頼と誠実性の促進について説明がなされた。これに関しては、2014年の欧州連合（EU）の改正法定監査指令<sup>3</sup>への対応、ヨーロッパの会計士への倫理に関するアンケート結果の報告、違法行為への対応（以下「NOCLAR」という。）などの新基準対応及び若い人材を監査専門職に惹きつけることなどが課題であることが説明された。

そして、将来のSMEの監査・保証の課題に関連して、「2 IAASBアップデート」でも記載した、小規模企業向け監査基準<sup>4</sup>については、Accountancy Europeでも方向性について定まっていないことなどが紹介された。また、非財務情報や税務において、SMPであっても保証業務の提供の可能性があることが紹介された。

上記のほかに、持続可能な経済への貢献や、税務代理人のための倫理規程、デジタル化への対応（クラウド、データ保護規制）など、ヨーロッパの会計士が直面する課題が説明された。

（樋口尚文）

## 第2章 SMPフォーラム

IFACと世界銀行のCFRRは共同で、SMPC会議の翌日である2017年5月31日にSMPフォーラムをウィーンにて開催した。出席者は、東欧や中央アジアを中心とするPAOや学者、IFAC関係者や世界銀行関係者で、約110人が参加した。本フォーラムは、東欧の発展途上の6か国の財務報告システムを改善することにより、特に中小企業の同国での事業環境を改善するプログラム、及び中央アジア諸国を中心とした国（計6か国）の監査・財務報告制度を強化するプログラムという、CFRRの2つの活動の一環として開催された。

まず、IFAC会長であるRachel Grimes氏、世界銀行のガバナンス部門のディレクターであるEdward Olowo-Okere氏、オーストリア開発局のプライベート・セクター及び開発に関する責任者であるGunter Schall氏が開会の挨拶を行った。Grimes会長は、特に発展途上国のPAOへのサポートの重要性、テクノロジーが実務に与える影響、今後の若い世代にとっての会計士というキャリアの魅力等に言及した。

次に、セッション1として、「SMPについての課題と機会」のテーマでパネルディスカッションが行われた。本セッションでは、まず、SMPCのメンバーから2016年のグローバルSMPサーベイの結果の概要が報告された。特に、今回の主要な参加国である東欧や中央アジア計12か国における課題や機会が強調された。パネリストは、SMPCの議長やAccountancy EuropeのBlomme氏を含む3人で、SMPサーベイ結果の実務への影響等が議論された。

セッション2は、「職業倫理へのフォー

カス]のテーマで、まず、IESBAのSiong氏から、NOCLARを中心とする、最近の倫理規程の基準の動向が説明された。また、ビジネスや実務において職業会計士が直面するプレッシャーに関する、最近のヨーロッパの調査結果に関する報告・ディスカッションが行われた。

コソボのPAOの代表者からは、コソボでの倫理規程を含む各基準の導入に関する状況やPAOによる会員支援に関して報告が行われた。コソボのPAOは2001年に設立され、2009年にIFACに本加盟したばかりの団体で、その過程で様々な課題に関して、報告・ディスカッションが行われた。

セッション3では、「効率的な国際基準の導入」というテーマで、報告やディスカッションが行われた。

まず、IAASBのBahlmann氏より、ISA540、ISA315、及び品質管理関連の基準等のIAASBの最近の活動状況に関する報告が行われた。IAASBにおいて、SMEやSMPに対する考慮をいかに基準設定に反映しているかに関する報告も含まれていた。

次に、SMPCのメンバーからは、SMPCがIAASBやIESBAの基準設定活動にSMP/SMEの視点からのインプットを反

映させるためにどのような活動を行っているか、また、SMPCが作成するリソースにどのようなものがあるかに関して報告が行われた。リソースについては、「ISAガイド」や「中小事務所のための品質管理ガイド」だけでなく、レビュー業務、AUP、及びコンプライアンス業務といった、新しい業務機会となる非監査業務に関するリソースの内容に関する説明が行われた。

最後に、アルバニアのPAOの会長からは、監査の歴史が20年ほどしかなく、また、ほとんどの企業がSMEである同国において、どのように監査実務を定着させたかに関する報告が行われた。特に、ISAガイド等のSMPCのリソースやCFRRの活動の活用に関して説明が行われた。

セッション4では、「業務を成長させる」というテーマで議論が行われた。SMEが必要とするサービス及び職業会計士への期待は急速に変化しており、サステナビリティ報告や統合報告といった新しい業務に対する需要も増加している。これらのトピックや今後のテクノロジーの影響に関して、SMPCのメンバーを中心としたパネリストが議論した。また、米国やベラルーシでの事例について報告が行われた。

最後に、CFRRのDecker氏が閉会の挨拶を行い、本フォーラムは盛況裏に閉会した。

(納野知広)

#### <注>

- 1 詳細については、染葉真史「IFAC理事会 ニューヨーク会議報告」『会計・監査ジャーナル』2017年6月号91頁
- 2 IESBA "IESBA Strategy Survey Questionnaire" April 2017
- 3 社会的影響度の高い事業体(Public Interest Entity: PIE)の監査については、監査人の強制ローテーションが義務付けられたこと
- 4 ノルディック会計士連合による小規模企業向けの監査基準の提案  
Nordic Federation of Public Accountants (NRF) "NORDIC STANDARD FOR AUDITS OF SMALL ENTITIES, June 2015-Consultation" June 2015  
<https://www.revisorforeningen.no/globalassets/fag/revisjon/sase/NSASE-eng> (2017年6月21日閲覧)